

平成21年度文部科学省委託事業
「学校における情報モラル等教育の推進事業
(指導者養成事業)」
実施報告書

平成22年3月

財団法人 コンピュータ教育開発センター

はじめに

社会の情報化が進展するなかで、子どもたちが情報化の「影」の部分をも十分理解し、情報社会に積極的に参画する態度を育てることは、今後ますます重要になる。携帯電話やパソコンなどを通じたインターネット利用が急速に児童生徒の間にも広がるなか、現在、インターネット上での誹謗中傷やいじめ、犯罪や違法・有害情報などの問題が発生しており、こうした問題を踏まえ、「情報モラル」について指導することが必要となっている。

これまで文部科学省では、「情報モラル指導モデルカリキュラム」の策定や情報モラル指導用ガイドブック『情報モラル』指導実践キックオフガイド』の作成・公表を通じて、学校において情報モラル教育が体系的かつ着実に実践されるよう推進してきた。

また、「教育振興基本計画」（平成20年7月閣議決定）においては、子どもたちがインターネット上の有害情報に触れ、犯罪等に巻き込まれないよう、学校・家庭・地域における情報モラル教育を推進すること、さらに、「知識基盤社会」の時代を担う子どもたち一人一人の「生きる力」をはぐくむため、児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成に加え、情報モラル教育の充実を促すこととしている。これらを踏まえ、文部科学省では、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の学習指導要領の改訂により、「情報モラル教育」の充実を図ることとし、小学校・中学校については今年度から、高等学校・特別支援学校については平成22年度から、各教科科目等の授業において、それぞれのねらいに即した学習活動のなかで、情報モラルを確実に身に付けさせる指導を行うこととなった。

しかし、そのためにはそれら一人一人の教員の指導力を高めるための教員研修会において、講師を務めることができる指導者の養成が喫緊の課題となっている。

コンピュータ教育開発センターでは、このような背景から実施された平成21年度文部科学省委託事業「学校における情報モラル等教育の推進事業（指導者養成事業）」を受託し、「情報モラル指導者養成研修検討委員会」を設置した。本委員会では、後述の報告の通り、研修内容、研修プログラムを検討すると共に、研修テキスト並びに研修教材であるプレゼンテーション資料の作成を行い、全国7カ所で指導者養成研修会を実施した。

本研修会の全国規模での実施により、各都道府県に情報モラル教育研修の指導者となり得る人材を育成することができたが、今後は、本研修会の受講者が各地域・学校において指導者となり、すべての学校ですべての教員が情報モラル教育を実施できるようになることを期待している。

また、そのようなことを可能とするために、本年度本研修会を受講できなかった方にも本報告書と資料を参考としていただき、指導者養成研修を実施していただければ、誠に幸いである。

平成22年3月

情報モラル指導者養成研修検討委員会委員長
鳴門教育大学准教授 藤村 裕一

目 次

本事業の概要	1
1. 事業の内容	
2. 検討委員会の設置	
3. 委員会の検討経過	
研修用教材「情報モラル指導者研修ハンドブック」の開発について	4
1. 「情報モラル指導者研修ハンドブック」の開発	
2. ハンドブックの構成と考え方	
3. プレゼンテーション用補助教材の開発	
情報モラル指導者養成研修会について	9
1. 研修プログラム	
2. 研修会の開催状況	
アンケート結果について	14
1. アンケートのまとめ	
2. アンケートの集計	
相談窓口やコミュニティサイトの設置について	22
1. 未履修者用補講教材サイト	
2. コミュニティサイト	
3. 運用の状況と今後	
本事業の成果と課題	24
付録1. 指導者養成研修プレゼンテーション資料	29
付録2. アンケート調査票	
付録3. アンケート集計表（地域別）	
付録4. 指導者養成研修開催要項	

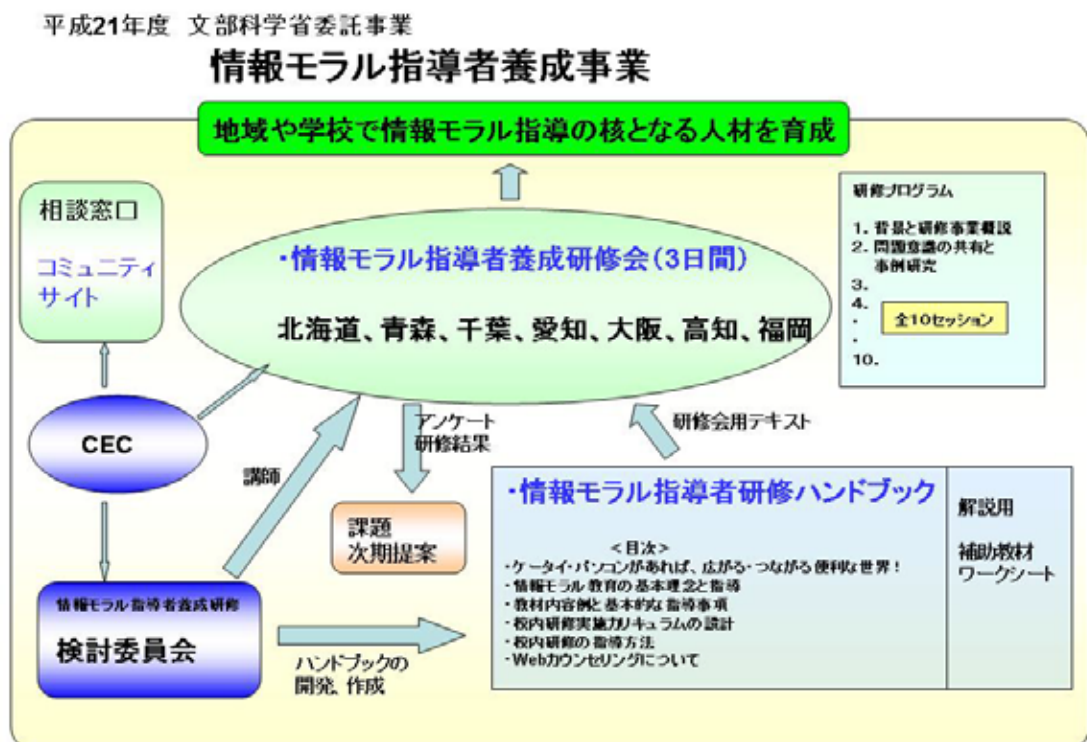
本事業の概要

財団法人コンピュータ教育開発センター（以下「CEC」という。）は、平成21年度文部科学省委託事業として「学校における情報モラル等教育の推進事業」（指導者養成事業）（以下「本事業」という。）を受託した。

本事業は、学校における情報モラル教育の充実を図るため、全国7地域において各地域の都道府県・市区町村の指導主事及び教員を対象にした情報モラル指導に関する研修会を開催し、情報モラル教育の研修の講師となる人材を養成する。指導主事や教員のための情報モラル指導研修用の教材を開発すること等を通して、情報モラル教育に関する研修の在り方等について研究するものである。

1. 事業の内容

- (1) 指導主事や教員のための情報モラル指導研修用の教材の開発
- (2) 全国7地域において、情報モラル指導に関する研修会(3日間)の開催
- (3) 情報モラル指導に関する課題を調査するため受講者アンケート調査の実施
- (4) 研修後も研修受講者をフォローするための相談窓口の設置
- (5) 研修後も研修受講者同士が意見交換や情報交換ができるコミュニティサイトの設置
- (6) 本事業の報告・分析・次期への提案



2. 検討委員会の設置

本事業を実施するため、CECに事務局を置き、次のメンバーによる「情報モラル指導者養成研修検討委員会」を設けた。

委員長	藤村 裕一	鳴門教育大学准教授
委員	石原 一彦	岐阜聖徳学園大学教授
	梶本 佳照	兵庫県三木市立教育センター所長
	上水流信秀	岐阜県教育委員会情報化推進担当課長補佐
	佐久間茂和	東京都台東区立東泉小学校長
	高橋 邦夫	学校法人高橋学園千葉学芸高等学校長
	坪田 篤子	NTTコミュニケーションズ株式会社 法人事業本部第二法人営業本部第二営業部課長代理
	西田 光昭	千葉県柏市立田中小学校教頭
	原 克彦	目白大学教授、教育研究所長
	三宅 健次	千葉大学教育学部附属中学校教諭

協力 安川 雅史 全国Webカウンセリング協議会理事長

3. 委員会の検討経過

4回の委員会と研修用教材作成等のため3回のワーキンググループ会議を開催したほか、メーリングリストとWeb共有フォルダーを活用した。

(1) 第1回委員会 平成21年12月9日(水) 18時～21時

事業計画の確認
研修会の開催について
ア 地域と規模
イ 研修プログラム
ウ 担当講師
エ 募集案内等
研修用教材について
ア 項目・内容の検討
イ 執筆担当委員の決定
ウ スケジュールの確認

(2) 第2回委員会 平成21年12月18日(金) 18時～21時

研修プログラムについて
研修用教材(「情報モラル指導者研修ハンドブック」)について
研修会開催要項について
担当講師の調整

(3) ワーキンググループ会議 平成21年12月25日(金) 14時～19時

情報モラル指導者研修ハンドブックについて

(4) ワーキンググループ会議 平成22年1月6日(水) 14時～21時

情報モラル指導者研修ハンドブックについて

(5) 第3回委員会 平成22年1月26日(火) 18時～22時

研修用補助教材について

受講者アンケートについて
報告書の構成について
受講証明書について

(6) 第4回委員会 平成22年3月13日(土) 18時~21時
報告書(案)について

(7) ワーキンググループ会議 平成22年3月25日(木) 18時~21時
報告書の最終とりまとめ

・研修用教材「情報モラル指導者研修ハンドブック」の開発について

この教材開発は短い期間での作業であったため、委員会、ワーキンググループ会議の集中的開催だけでなく、これに加えて、メーリングリストでのやり取りも連日行った。

1. 「情報モラル指導者研修ハンドブック」の開発

開発に当たっては、児童・生徒が被害者や加害者となる事例が多発していることにかんがみ、学校における情報モラル教育についての喫緊の課題への対応を中心に行うこととし、また、研修受講者が研修会終了後、地域や学校に戻った際にその地域や学校での研修を実際に計画できるようなものにしたという考えに立って、「情報モラル教育の基本理念と指導」、「教材内容例と基本的な指導事項」に加えて、「校内研修実施カリキュラムの設計」、「校内研修の指導方法」についても盛り込んだ。

なお、本ハンドブックは喫緊の課題への対応を中心とし、全てを網羅しているわけではないため表紙に「ここからはじめる」を入れた。

「情報モラル指導者研修ハンドブック」URL



http://www.cec.or.jp/monbu/pdf/h21jmoral/handbook_A4.pdf

2. ハンドブックの構成と考え方

(1) 考え方

ハンドブックの開発に当たっては、従来「情報モラル教育」が、情報社会のマイナス面を過度に強調して危機意識をあまり、否定的な面の羅列が多かったのを改め、児童・生徒が情報機器を上手に使いこなす、情報社会のプラス面を享受し、安心安全に生きていけるようにとの思いから、まず情報社会がもたらす恩恵と問題点を取り上げ、続いて情報モラル教育の理念や指導事項などを盛り込むこととした。

また、我が国において「情報モラル」の概念はきわめて広く、簡単なハンドブックで全てを網羅できるものではないとの判断から、情報モラル教育の指導者を育成するための研修用として情報モラル教育に関する喫緊の課題を中心にポイントを絞ってまとめている。

さらに、ハンドブックをより読みやすく、分かりやすくするため、イラストや図表などを多用し、文章部分についても多色刷りとしている。

これらの工夫点を簡単に図示すると次ページのとおりである。



(2) ハンドブックの構成とポイント

p. 2 ~ p. 3 「ケータイ・パソコンがあれば、広がる・つながる便利な世界！」

- ・ネット社会のマイナス面だけではなく、健全なネット社会を作ること、ICTは素晴らしいものだということを記述した。

p. 4 ~ p. 7 情報モラル教育の基本理念と指導

- ・指導者研修であるということから情報モラル教育の基本理念を記述。なぜ情報モラルが必要とされるのか、情報モラルの内容と目的、指導内容、目的に応じた多彩な学習活動の実施のほか、新学習指導要領における情報モラルの取り扱いについて、小学校、中学校の各教科での取り扱いに関する解説、年間指導計画の作成方法などを記述した。

p. 8 ~ p. 9 「情報モラル指導モデルカリキュラム表」

- ・情報モラル指導モデルカリキュラムを掲載した。

p. 10 ~ p. 22 「教材内容例と基本的な指導事項」

- ・ページ数の関係でより少ない事例で応用がきくようにしている。実践事例は優先順位の高い順に並べてある。少ない時間でも基本的なことが分かるようにすること、緊急避難など「少なくともこれをやっていただきたい」ことがわかるような内容とした。

p. 1 0 「相手のことをよく確かめて」

- ・「なりすまし」が可能な理由を、具体例を挙げて説明し、被害例を紹介して、ネット上で出会った人物と保護者の同伴なしに会わないよう指導する。
- ・他にどのような場で、どのようななりすましが有り得るかを考えさせる。
- ・ネットの向こうの「誰か」を安易に信頼し、個人情報を直接伝えてしまうこと(ダイレクトコンタクト)の危険性を考えさせる。

p. 1 1 【コラム】ネットパトロールについて

- ・問題サイトを発見し、書き込みの削除依頼等の対応をするためには、教師やPTA、教育委員会、警察等が協力していわゆる「ネットパトロール」を行うことが有効で、本項では自分のパソコンを携帯電話として認識させる「携帯電話エミュレータ」のインストールの方法から検索の方法を記述している。

p. 1 2 「書き込みされた人のことを考えて」

- ・ネット上に公開された情報は、誰もが見ることができ、何気なくネット上に公開した情報が、社会に大きな影響を与えることがあることを生徒に理解させることが重要である。
- ・指導する先生にとっては、ICTに関する技術的な知識よりも、新聞などに報道されているインターネット上の事件・事例についての知識の方がより重要であること等を記述している。

p. 1 3 「気になる書き込みをされたら」

- ・ネット上で自分について不快な書き込みを見ても、相手にしないように指導することが重要である。被害にあったとの相談を児童生徒から受けた時の対処方法を記述している。

p. 1 4 「迷惑メールに気をつけて」

- ・メールアドレスを不用意に公開しないように指導する。

p. 1 5 「高額請求されたら」

- ・メールや宣伝に興味を覚えて、指示通りクリックしたら、会員登録されていて、料金を請求された。このようなサイトは、出会い系サイトやアダルトサイトであることが多い。この契約の無効を主張できることなどを指導する。

p. 1 6 「個人情報の扱いは慎重に」

- ・掲示板やチャットでは、自分と相手だけの会話でも誰が見ているかわからないので、不用意に個人情報を書き込んだり、ネットで出会っただけのよく知らない人に決して伝えたりしないように指導する。会員制であっても、ブログやプロフの個人情報は安全ではないことを指導する。

p. 1 7 「使いすぎに気をつけて」

- ・保護者と相談して、児童生徒の携帯電話の使用について、例示されたルールを決めるように指導する。
- ・コンピュータを使っただけのオンラインゲームやネット上でのコミュニケーションの依存症についても、携帯電話と同様にルールを決めるように指導する。

p. 1 8 「勝手に載せてもいいの？(肖像権の尊重)」

- ・勝手に撮影されたり利用されたりすることは誰にとっても嫌なことであること、人にはそれぞれ「肖像権」があり、勝手に自分の顔や姿を利用されないように保護されていることを指導する。

p. 1 9 「勝手に使ってもいいの？（著作権の侵害）」

- ・他人の著作物を勝手に自分のものにしたたり、無断で使ったりすると著作権侵害となるが、著作権者に許諾を得ることで利用できることを理解させる。

p. 2 0 「ネット上の書き込みには責任を」

- ・メールやブログ、掲示板など、ネット上でおもしろ半分でウソや悪口の書き込みをすると、多くの人に迷惑をかけたたり、他人を傷つけたりすることがある。場合によっては大きな事件に発展することもある。ネット上に書き込みをする時は、その内容に十分責任を持つように指導する。

p. 2 1 「コンピュータウイルスに気をつけて」

- ・ファイルが添付されたメールや、知らない宛先から届いたメールはコンピュータウイルスに感染している恐れがある。知らない人からの添付ファイルのついたメールや、怪しいと感じたメールは、開かずにそのまま削除するように注意する。
- ・ページを見るだけでコンピュータウイルスに感染することもあるので、怪しいサイトにはアクセスしないように注意する。

p. 2 2 「チェーンメールが来たら？」

- ・不特定多数の人への転送を指示するチェーンメールは、ウソの情報を書いたデマメールの場合がほとんどであること、転送が繰り返される度に膨大な数のメールとなって人に迷惑をかけることなどを知らせ、チェーンメールを受け取ったら、どんな情報であろうとも無視して削除するように指導する。

p. 2 3 「総括的な指導事項」

P. 2 3 「顔の見える相手と見えない相手、どちらの人間関係も大切に！」

- ・ケータイのメールやブログ、掲示板などは、例えば遠く離れている友人や、田舎の祖父母など、普段はなかなか会うことができない人たちと交流を深める時に役立つ便利な道具である。
- ・家族と顔を合わせての会話を挙げ、対面でのコミュニケーションの大切さを感じさせる。

p. 2 4 「トラブルに巻き込まれないために」

- ・携帯電話の迷惑メール対策情報、有害情報対策としてフィルタリングの有効活用を記述している。

p. 2 5 「トラブルに巻き込まれてしまったら」

- ・トラブルに巻き込まれてしまったら、状況を確認し、記録を残し、ネットワーク管理者に連絡するか、専門家に相談をするための連絡先を掲載している。

p. 2 5 「情報モラル指導のためのサイト〔教材・資料〕」

- ・文部科学省、文化庁、総務省、警察庁など公的機関で開発された教材や資料のURLを掲載している。

p. 2 6 ~ p. 2 9 「校内研修実施カリキュラムの設計」

- ・情報モラル指導者養成研修として、情報モラルの指導者養成のための校内研修実施のためのカリキュラムを考えるうえでポイントとなることを記述している。

p. 30 ~ p. 31 「校内研修の指導方法」

- ・校内研修を指導するにあたって、研修内容が「教師が児童生徒に対して行う授業の方法」であれば、児童生徒に自分の考えを持たせたり判断させたりする場をどのように設定するのか、「教師が児童生徒に対して行う授業の方法」について記述している。

p. 32 ~ p. 33 「Webカウンセリングについて」

- ・ネットいじめに関するカウンセリングを中心にカウンセリングの方法、対応や適切な処置について記述している。

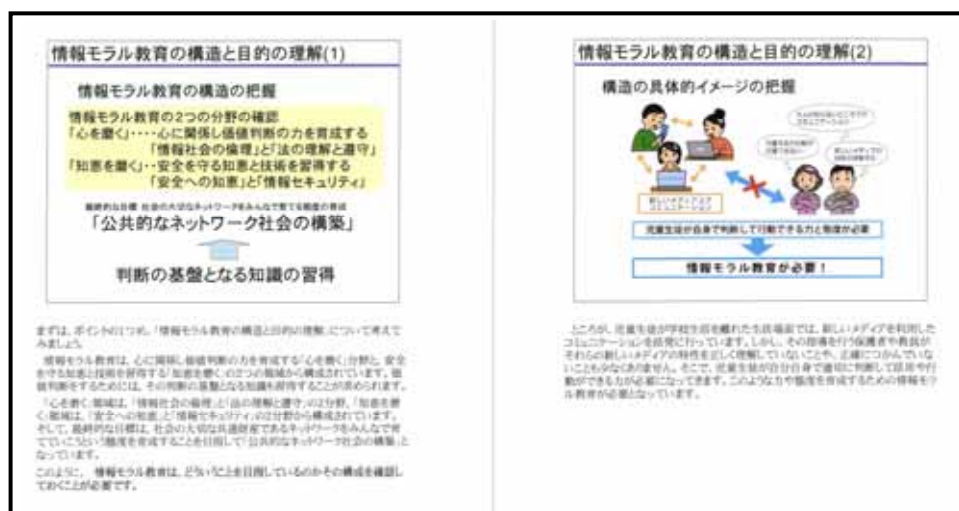
3. プレゼンテーション用補助教材の開発

ハンドブックを短期間に完成させざるを得なかったことから、研修内容をさらに充実させるとともに、各会場ともほぼ同じレベルのものが提供できるように、ハンドブックを補充するプレゼンテーション用の補助教材もあわせて作成した。内容は、付録1. プレゼンテーション用補助資料を参照されたし。

プレゼンテーション資料はプロジェクターで提示をするとともに、受講者にコピーを配付した。

作成にあたっては次の点に注意した。

- ・使用している図は高解像度で作成した。
- ・表やグラフの中の文字が小さい場合は工夫して数値などがわかるようにした。
- ・本研修資料はダウンロードできるようにした。
- ・資料には読み上げ原稿を入れた。



(例) 読み上げ原稿のついたプレゼンテーション用補助教材

情報モラル指導者養成研修会について

1. 研修プログラム

研修会が受講者である指導主事や教員にとって実りあるものとするため、研修期間は3日間(実質2日間)参加者は各会場100名程度とし、研修プログラムについても一方的な講義形式のものだけでなく、ワークショップも採り入れて受講生同士の活発な討議が行えるようにした。

< 研修プログラム例 >

本研修は地域での研修や学校での校内研修などで情報モラル研修を実施するための課題を自分で考え、目的や意義などをどう伝えるのか、地域・自校の課題や解決法をまとめて今後の情報モラル研修の取り組みへの方策を研究するとともに、研修実現への実施計画策定等についてワークショップを通して課題や解決方法を整理していただくことを目的としている。

日 時	時間数	セッション	内 容(例)
1 日目 13:00 ~ 17:00	13:00 13:20 (40分 講義) (20分 グループ分 け) 14:20 (60分 講義) 15:30 (90分 講義)	開会 1. 背景と研修事業概説 講師：文部科学省または 学識経験者 <アイスブレイクタイム> 2. 問題意識の共有と事例研究 講師：委員と指導主事 <休憩> 3. 情報モラル教育の 基本理念と指導 講師：委員	・全国の実態について ・情報モラルの必要性 ・新学習指導要領について 情報モラルの定義、新学習指導要領における情報モラル教育の位置づけなどを学んでいただく。 アイスブレイキングは今後の仲間意識を高め て頂くために自己紹介などを最初に行って いただく。 ・実態情報の共有 ・事案紹介 ・地域の現状把握 情報社会の光と陰、情報モラルの現状などにつ いて地域の現状、全国の現状を知り、自分の情報 モラル教育に対する問題意識を確認していただ く。 ・情報モラルの概念 ・情報モラル教育の内容と目的 ・モデルカリキュラムを基にした指導内容 情報モラルの基本理念(2領域5分野を含む) 情報モラル指導モデルカリキュラム、体系的・系 統的指導などについて確認と考え方の整理を行 っていただく。
2 日目 9:00 ~ 11:30	9:00 (120分 講義)	4. 教材内容例と基本的 な指導事項 講師：委員	・教材例と基本的な指導事項 ・トラブル事例などの特徴、背景 情報モラル教育の教材内容、情報モラル指導モ デルカリキュラムとの対応、利用可能な教材など についてインターネット等で検索し、資料を持ち

	11:00 (30分 講義)	5. カウンセリングについて 講師：委員	帰る。 ・カウンセリングの方法 情報モラルに関する基本的なカウンセリングの仕方、具体的トラブル対応の仕方などについて通常のカウンセリングと違う対応が必要であること、適切な処置の方法などを持ち帰る。
2 日目 12:30 ~ 17:00	12:30 (80分 講義)	6. 各教科・道徳等での指導方法 講師：委員 <休憩>	・校内研修用指導計画の作成 ・指導用教材の作成 ・模擬研修の役割分担 情報モラルの各教科・道徳等での指導内容・指導方法などについて具体的な活用例により教材を作成していただく。
	14:00 (50分 講義)	7. 研修設計、指導方法 講師：委員 <休憩>	・校内研修のカリキュラムの設計 ・実技研修やワークショップ研修指導方法 地域研修、校内研修実施カリキュラムの設計の仕方などについて研修の目標や基準を整理する。
	15:00 (120分 グループ分 け)	8. 研修実施ワーク ショップ 講師：委員	・グループ内模擬研修 ・研修成果の共有 ワークショップでは5～6人のグループに分かれて頂き、グループとしての課題や解決策をワークシートに記入し協議する。(必要に応じてP.C、模造紙、ポストイットなどを使用する)
3 日目 9:00 ~ 12:00	9:00 (120分 グループ分 け)	9. 研修成果の発表と討 論 講師：委員	・ワークショップでの成果の発表と討論 自分で研修カリキュラム・展開案を作成した感想と、他グループの発表を聞き実現の可能性や問題点を議論する。
	11:00 (50分 各グルー プ代表が 前に出て 決意表明 を行う)	10. 自校の課題克服方 策に関する討議と 決意表明 講師：委員	・発表 討議内容から学んだことを発表するとともに研修終了後戻った時にどのような研修計画を実施するか決意表明をする。
	11:50	閉会	受講証明書授与 アンケート回収

なお、今年度研修会に参加できなかった方々に活用していただくために、愛知会場の研修会の様子をビデオ撮影し、4月以降文部科学省のエルネットで公開することとした。

2. 研修会の開催状況

(1) 研修会は、主催文部科学省、共催CECとして、下記のとおり2月3～5日の愛知県を皮切りに北海道、高知県、青森県、福岡県、大阪府、千葉県の全国7地域において合計592名の参加を得て開催した。開催地域は、文部科学省が実施した教員のICT活用指導力についての調査結果や地域バランス等を考慮して選定し、会場の確保、受講者の募集等については開催地の教育委員会等の協力を得た。

(2) 地域別研修会の概況は次のとおりである。



講義の風景



ワークショップで議論の風景



ワークショップ発表風景

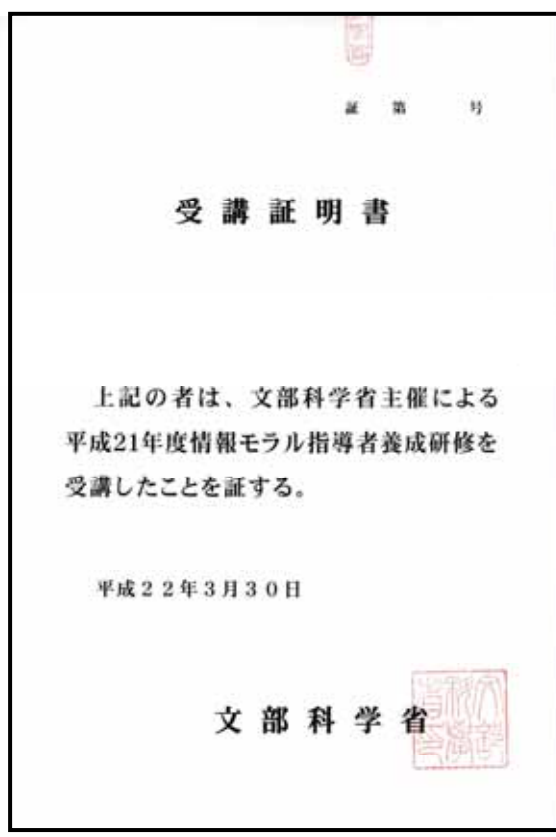
・開催地別受講者数

開催地	開催日時	開催場所	参加者 総数	参加者区分別人数	
北海道	平成 22 年 2 月 16 日(火) 2 月 17 日(水) 2 月 18 日(木)	北海道立教育研 究所	6 4 名 (内他都府 県からの 参加者 0 名)	小学校	6 名
				中学校	1 0 名
				高等学校	2 7 名
				特別支援学校	3 名
				指導主事	1 8 名
青森県	平成 22 年 2 月 23 日(火) 2 月 24 日(水) 2 月 25 日(木)	青森県総合学校 教育センター	1 3 6 名 (内他都 道府県か らの参加 者 24 名)	小学校	2 7 名
				中学校	1 5 名
				高等学校	2 7 名
				特別支援学校	1 8 名
				指導主事	4 9 名
千葉県	平成 22 年 3 月 17 日(水) 3 月 18 日(木) 3 月 19 日(金)	さわやかちば県 民プラザ	4 7 名 (内他都道 府県から の参加者 44 名)	小学校	2 名
				中学校	5 名
				高等学校	1 1 名
				特別支援学校	3 名
				指導主事	2 6 名
愛知県	平成 22 年 2 月 3 日(水) 2 月 4 日(木) 2 月 5 日(金)	ウィンクあいち	8 0 名 (内他都道 府県から の参加者 28 名)	小学校	1 8 名
				中学校	1 2 名
				高等学校	2 5 名
				特別支援学校	9 名
				指導主事	1 6 名
大阪府	平成 22 年 3 月 8 日(月) 3 月 9 日(火) 3 月 10 日(水)	大阪府教育セン ター	8 1 名 (内他都道 府県から の参加者 39 名)	小学校	2 5 名
				中学校	1 3 名
				高等学校	2 0 名
				特別支援学校	5 名
				指導主事	1 8 名
高知県	平成 22 年 2 月 17 日(水) 2 月 18 日(木) 2 月 19 日(金)	高知共済会館	1 0 1 名 (内他都道 府県から の参加者 20 名)	小学校	1 0 名
				中学校	8 名
				高等学校	1 1 名
				特別支援学校	4 名
				指導主事	6 8 名
福岡県	平成 22 年 2 月 23 日(火) 2 月 24 日(水) 2 月 25 日(木)	T K P 博多シテ ィセンター	8 3 名 (内他都道 府県から の参加者 38 名)	小学校	1 6 名
				中学校	1 1 名
				高等学校	3 0 名
				特別支援学校	5 名
				指導主事	2 1 名
合 計			5 9 2 名	小学校	1 0 4 名
				中学校	7 4 名
				高等学校	1 5 1 名
				特別支援学校	4 7 名
				指導主事	2 1 6 名

・都道府県別受講者数 全592名（内訳は下記のとおり）

都道府県名	受講者数	都道府県名	受講者数	都道府県名	受講者数	都道府県名	受講者数	都道府県名	受講者数
北海道	64名	青森県	112名	岩手県	5名	宮城県	5名	秋田県	10名
山形県	4名	福島県	4名	茨城県	1名	栃木県	10名	群馬県	3名
埼玉県	7名	千葉県	7名	東京都	4名	神奈川県	5名	新潟県	1名
富山県	2名	石川県	5名	福井県	5名	山梨県	4名	長野県	1名
岐阜県	5名	静岡県	9名	愛知県	52名	三重県	7名	滋賀県	2名
京都府	7名	大阪府	42名	兵庫県	5名	奈良県	5名	和歌山県	1名
鳥取県	1名	島根県	5名	岡山県	5名	広島県	10名	山口県	1名
徳島県	8名	香川県	2名	愛媛県	10名	高知県	81名	福岡県	45名
佐賀県	6名	長崎県	4名	熊本県	2名	大分県	4名	宮崎県	4名
鹿児島県	7名	沖縄県	3名						

- (3) 本研修の全日程を受講した方々には、文部科学省から「受講証明書」が交付された。
 なお、本研修会は3日間の日程であったこと、2～3月という年度末の多忙な時期であったこと等から、やむを得ず全日程に参加できなかった受講者(連続した2日間は必須である)には、上記に述べたビデオを視聴してレポートを提出することをもって受講したこととし、「受講証明書」が交付された。



アンケート結果について

1. アンケートのまとめ

本研修の内容について、9割以上の研修生が今後の情報モラル指導の参考になると回答しており、特に情報モラル指導に必要な教材の把握と、その教材を活用した指導方法のセッションの満足度が高い結果になった。情報モラルの指導方法を把握して、セッション8のワークショップでの研修案の立案に大きく資することで、3日間の研修目的である、今後の情報モラル教育指導者養成に寄与したことがうかがえた。なお、アンケート項目と会場ごとの集計詳細は、以下を参照されたい。

2. アンケートの集計

(1) 全体実績

アンケートは7開催地の研修参加者に対し、研修終了後に無記名形式にて実施した。

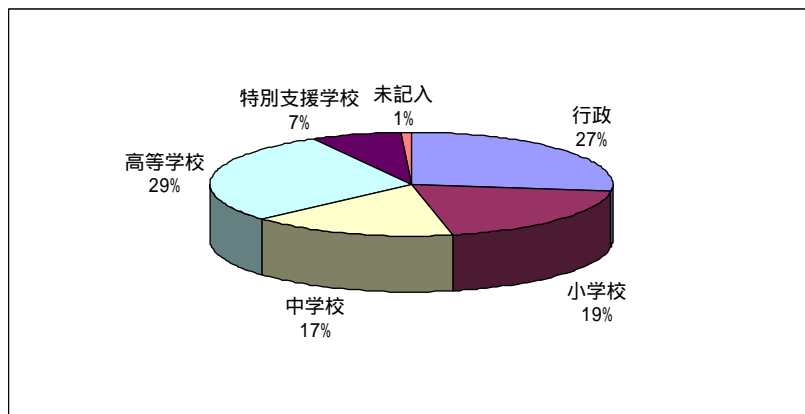
開催地	参加者数	回収数	有効回答率
北海道	64	50	78%
青森	136	103	76%
愛知	80	71	89%
高知	101	81	80%
福岡	83	79	95%
大阪	81	65	80%
千葉	47	43	91%
総数	592	492	83%

約600名の参加者を得られた。以下の集計グラフにおいては、分かりやすさを重視し、%を2ケタ表示している。

(2) 受講者プロフィール

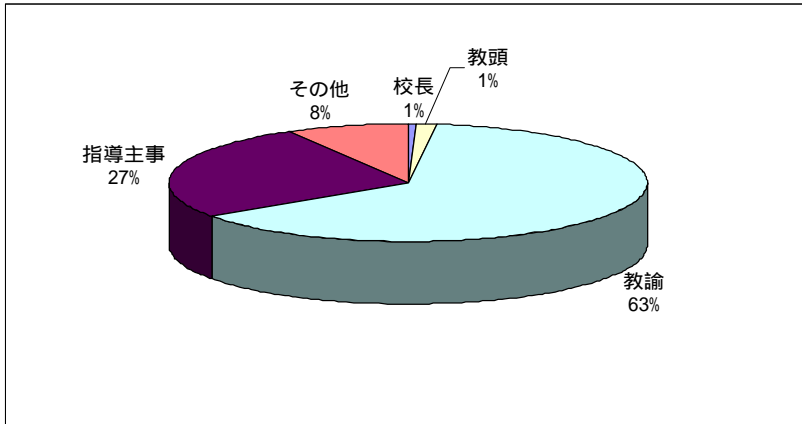
所属

研修生の所属としては、行政・小中高等学校などから、参加している。



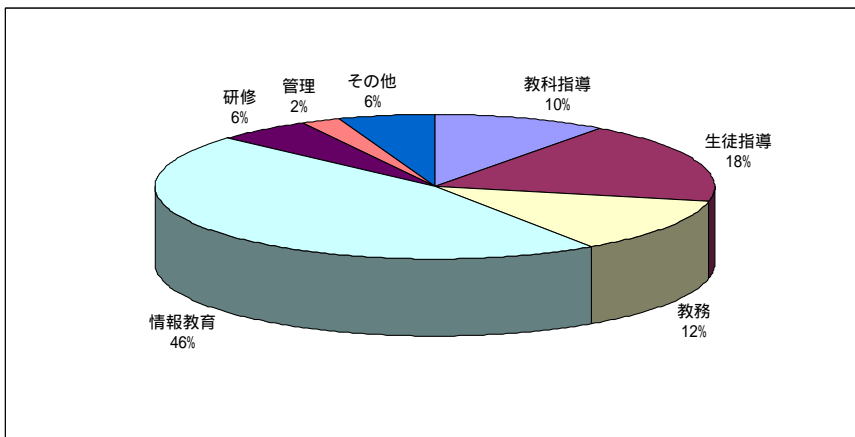
職名

指導者養成研修ということで、行政の受講者が多くなるのではないかと当初予想であったが、実際には教員が63%であった。教育の現場で緊急に情報モラルの研修、特に校内研修の実施に向けて指導者養成の必要性を感じていると思われる。



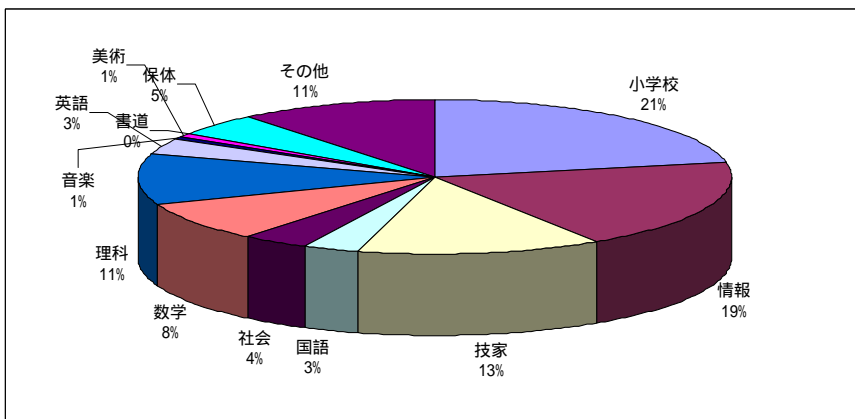
分掌分野

情報教育担当者が46%あり、情報モラルへの関心が高いが、生徒指導担当者も18%あり、生徒指導という側面からも問題になっていることがうかがえる。



教科

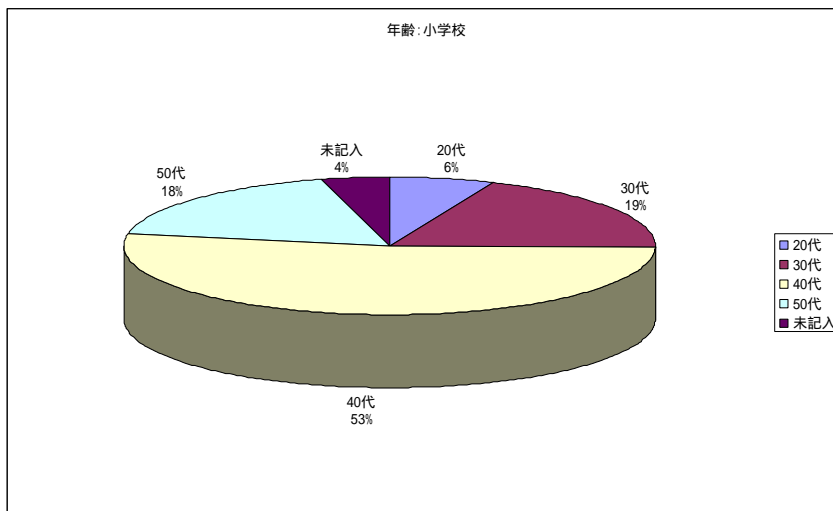
情報教育を高校および中学校で担当している教員がやはり最も多かった。



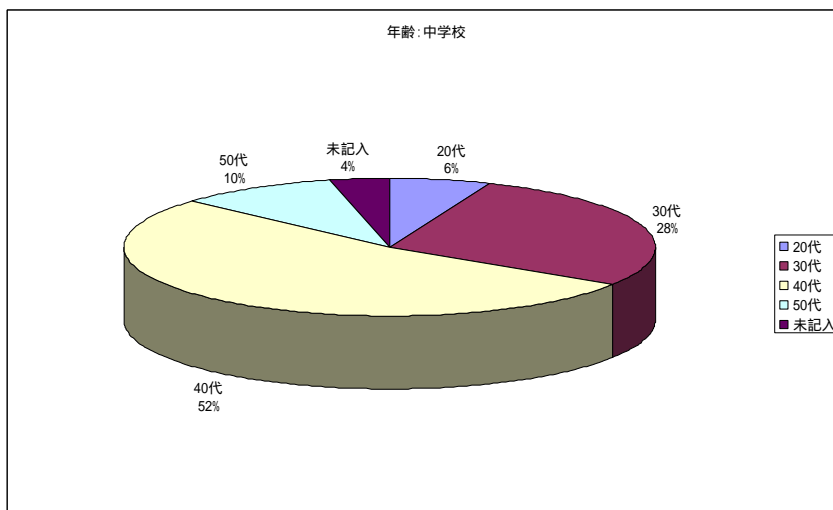
年齢

参加者を学校種別で分けたところ、小中高等学校共に同じような傾向が出た。

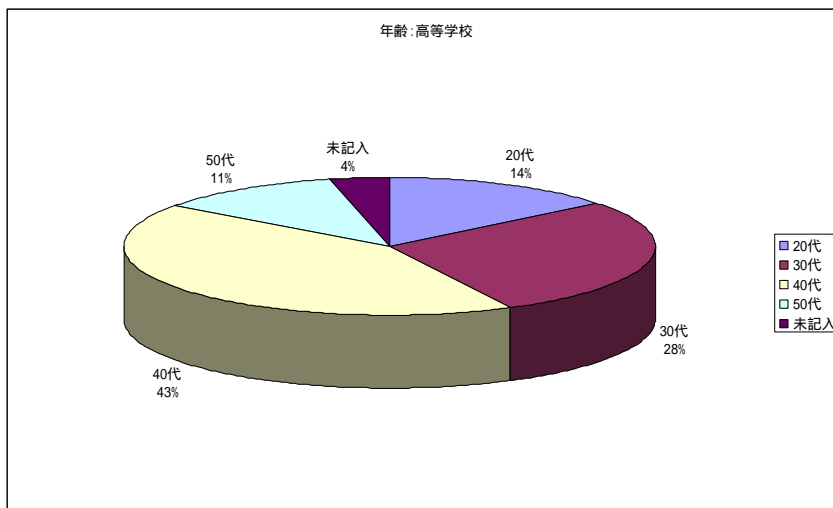
・年齢別：小学校教諭



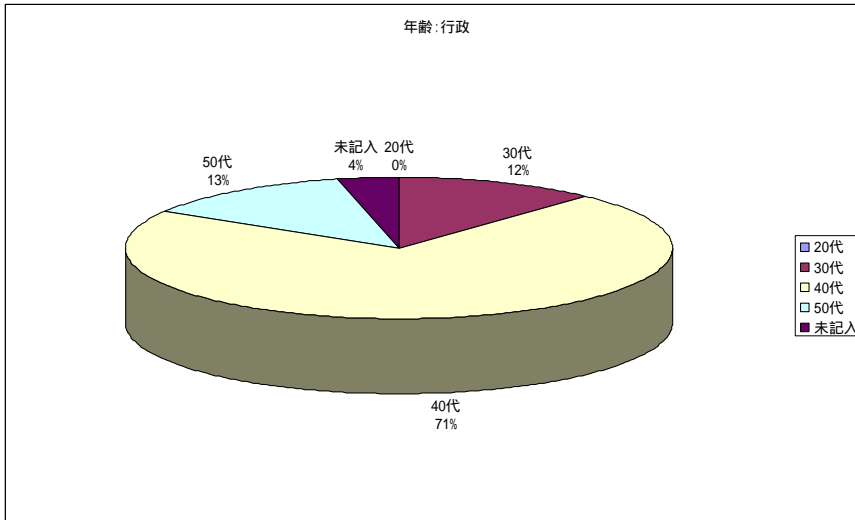
・年齢別：中学校教諭



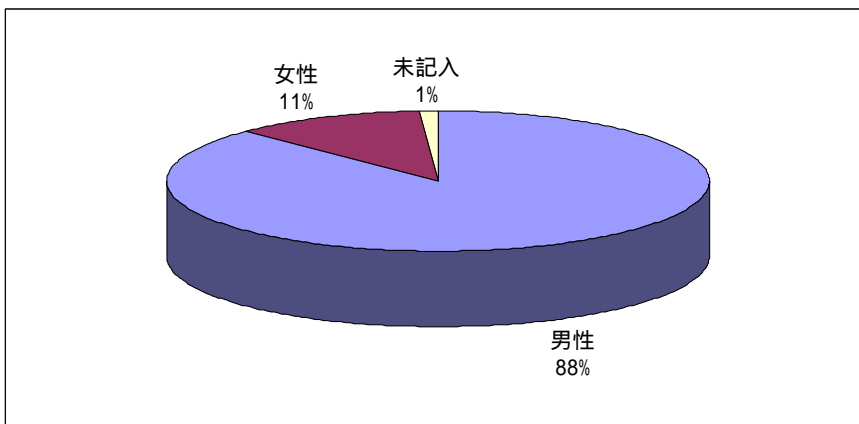
・年齢別：高等学校教諭



・年齢別：行政



男女別



(3) 本研修会全般について

今回の研修会は今後の情報モラル指導の参考になりますか？（5段階評価）

今後の情報モラル指導の参考となる、4と5の高評価が9割以上だった。今後地域に戻って情報モラル研修を指導の参考とするため、意欲的に参加したことがうかがえる。

参考になる	5	345	70%
	4	118	24%
	3	20	4%
	2	5	1%
参考にならない	1	1	0%
未記入		3	1%
総数		492	100%

なお、2及び1評価の6名については、その他の情報との対比から、より高度な内容の研修を要望している者と判断できる。

「情報モラル指導者研修ハンドブック」は、今後の参考になりますか？（5段階評価）

9割以上が4と5の高評価となっている。情報モラル指導者研修ハンドブックが、情報モラル指導の今後の参考になると評価していることがとがえる。

参考になる	5	396	80%
	4	83	17%
	3	8	2%
	2	1	0%
参考にならない	1	1	0%
未記入		3	1%
総数		492	100%

研修内容の難易度を評価してください。（5段階評価）

研修の難易度が高めに設定されているという回答であった。これは研修が有効であったと評価できる。低レベルという評価であると研修に来た意味がなかったという評価になる。地域に帰って校内研修の指導者となるべき人の研修の内容として適正なレベルであったということだと言える。

指導者養成研修としてはほぼ妥当、少しレベルの高いことを研修することができたという肯定的な意見であった。

高レベル	5	51	17%
	4	179	61%
	3	37	13%
	2	14	5%
低レベル	1	1	0%
未記入		10	3%
総数		292	100%

研修内容で良かったと思うもの（複数選択可）

理論編は評価が高くワークショップは低いという結果であったが、指導者研修にはよくある傾向であり、受講者は理論を学びたくてくる人が多いので、講義が高得点となっている。

セッション10「自校の課題克服方策に関する討議と決意表明」が低いのは受講者にとって必要感は低いという結果だが、受講者が地域に戻って情報モラル研修の指導者として研修を実施した際には、地域の受講者に明確な目標を持って帰らせることが重要となる。

今回の受講者の評価が低いからといってこのプログラムをカットしてしまうと研修実施者側の意図が生かせなくなってしまう。このセッションの重要性を受講者に理解させるような工夫が必要である。

アンケート回収数	セッション1 背景と研修 事業概説	セッション2 問題意識 の共有と事 例研究	セッション3 情報モラル 教育の 基本理念と 指導	セッション4 教材内容 例と基本的 な指導事項	セッション5 カウンセリングにつ いて	セッション6 各教科・道 徳等での指 導方法	セッション7 研修設計、 指導方法	セッション8 研修実施 ワークショップ	セッション9 研修成果 の報告と討 論	セッション10 自校の課 題克服方 策に関する 討議と決意 表明
492	169	245	321	290	146	254	193	224	196	77
	34%	50%	65%	59%	50%	52%	39%	46%	40%	16%

過去に同様のセミナーに参加したことがありますか？

8割以上の受講生が、情報モラル指導者研修に対し、過去に参加したことがなく、初めての研修であると回答している。

ある	63	13%
ない	427	87%
未記入	2	0%
総数	492	100%

過去に同様のセミナーに参加したことが「ない」と回答した427名中、「過去に情報モラル研修の企画担当者や指導者となったことがあるか？」との問いに26%が講師を経験していることが分かった。

ある	109	26%
ない	316	74%
未記入	2	0%
総数	427	100%

講師経験が「ある」と回答した109名の業種別は下記のとおりであった。

行政	51	47%
高等学校	20	18%
中学校	17	16%
小学校	15	14%
特別支援学校	4	4%
未記入	2	2%
総数	109	100%

(4) 担当の学校や地域での情報モラル指導に関する教員研修について

過去に情報モラル研修の企画担当者や指導者となったことがあるか？

指導者経験が「ある」と回答した受講者は32%。今後このような指導者研修をさらに実施して、この率を上げていく必要がある。

ある	157	32%
ない	332	67%
未記入	3	1%
総数	492	100%

本研修会の内容は、今後の教員研修の実施の際に参考になるか？（5段階評価）

本研修会の受講者から、参考になるとの意見が92%であった。

参考になる 5	316	64%
4	139	28%
3	27	5%
2	6	1%
参考にならない 1	1	0%
未記入	3	1%
総数	492	100%

参考にならないとしてポイントの低かった7名について、どこが参考にならなかったのか考察を行った。

「参考にならない1」を回答された受講者は「情報モラル指導者研修ハンドブック」には5ポイントと高得点に回答。他、講義の難易度に関しては3ポイントと回答、研修会の内容に強い不満があるということではなかった。

「2」と回答された6名の受講者について「参考にならない」と感じた回答として

は会場の都合によりワークショップでネットにつながったパソコンが利用できなかった、この研修をどう活用していけるのかが見えなかった、どのレベルを対象にしているのかわからない、といった記述があった。

このような意見が出ていたがそれはプログラムの内容そのものではなく、環境面であるとか、学校種への配慮であるとか教材の改善が必要であるという評価であり、内容が参考にならなかったということではないと考えられる。

(4) その他自由記述について(原文のまま)

【教材について】

- ・情報モラル指導者研修ハンドブックはとても分かりやすい。
- ・ハンドブックの有効性を感じます。
- ・セッション2「問題意識の共有と事例研究」の調査資料の紹介と教材はとても参考になりました。
- ・モラル教育には、マナー教育が伴うものと思います。マナー教育の教材も準備くださると助かります。
- ・高校向けの事例をもっと増やして欲しい。
- ・情報モラルの講演資料は良くまとまり見やすい構成でした。学校で使える内容が多い。
- ・聾学校用に字幕入り教材の紹介をしてほしい。映像教材作成の際は、字幕入りのものを作成して欲しい。

【研修内容について】

- ・今までは「こういうことをしてはいけない」という指導をしていましたが、心を磨き、知恵を磨く大切さを実感しました。
- ・研修カリキュラムの設計にもう少し時間をかけて、じっくり取り組めれば良かったと思います。
- ・厳しい日程ではあったが研修内で研修カリキュラムの設計から研修実施までやった事はとても意義のあることだと思う。2時間でそこまでやるのは大変だが、立場と責任を理解する事が出来た。
- ・セッション6「各教科、道徳等での指導」の内容がとてもよかった。具体的な例を提示していただいたので、よく分かった。特に教師の発問例が示してあるところがよかった。すぐに生かせる内容が多々あり、大変勉強になった。自校に帰り、実践し、広げて行きたいと思う。
- ・座学が多かったですが、セッション6「各教科・道徳等での指導方法」以下にもっと時間がかけれれば良かったかなと思います。セッション6はとてもよかったです。
- ・セッション7「研修設計、指導方法」についてはセッション1～6と重なる部分が多く、内容を精査する必要があると感じた。
- ・セッション8「ワークショップ」は、主催者側の意図をよく理解できないまま行った気がしたが、やってみてよかったと思う。
- ・ワークショップではせっかくのグループ研修なのでもう少しグループ内協議の時間をとっていただくと各地域の課題など共有できて良いのではないかと思います。
- ・ワークショップを行いグループ内で意見を出し合えて他校の現状を知る事が出来たり、アイデアが多く出されて良かったと思います。
- ・研修実施ワークショップの時間が半日あると、提示資料の準備がもう少し出来たと思う。
- ・ワークショップで情報交換することにより各地の実情も知る事ができた。
- ・ワークショップの内容、時間配分は一考した方がよい。時間やパソコン等の機材が充分でないので効果的な研修になっていない。
- ・ワークショップの時間をもっと確保して欲しい。せっかく各県から集まってきているので、情報交流等もして深めていくには2時間では無理。
- ・ワークショップで意見を出しやすいように各自の資料の準備など予告があると良かったの

ではないか。

- ・理論も良いがワークショップ等で実践を多くして欲しい。
- ・セッション9「研修成果の報告と討論」では、他県の状況が分かり大変参考になった。グループ分けは地域等をシャッフルした方がいいと思う。
- ・セッション10「自校の課題克服方策に関する討議と決意表明」はグループを2つに分けたのが残念だった。(教員と指導主事ということで仕方なかったのかもしれないが)せつかなので他の先生の話をもっと聞いてみたかった。
- ・研修を企画する為の知識、今後の方向性等内容が薄かったように思います。
- ・研修は内容に比べ2日半という時間が短く、慌しい印象を受けた
- ・講師の方が大別すると3名、講義内容が重複している部分があった。
- ・講義内容は良く整理されていて理解しやすかった。講義について、質問や意見を述べる時間があつた方が良かった。しんどくは無かつたがもの足りなかつた。
- ・座学だけでなく、実習ももっとあれば良い。

【参加者の感想】

- ・ワークショップでの発表では義務教育の方々のパフォーマンスや研修に対する意識の高さを感じました。高校では校内研修を難しく捉えすぎていた気がしました。高校教員に対するワークショップの設定や時間や取り組み方については検討を要するかも知れません。
- ・ワークショップの内容として紹介されたWeb教材を自由に見る時間があれば、今後の指導計画作成の参考になったと思う。職場に戻れば日々の業務に追われ、じっくり見ている時間的余裕が無い為。
- ・携帯に関する調査(アンケート)をしたいのですが、他校比較できるように共通内容のテンプレートが欲しい、アンケート結果も各校からコミュニティサイトへアップできるようにしてみようか？
- ・実際に各教科で指導する方法について本校の現状をふまえ改善すべき点が多いので容易に応用していく事は出来ないような気がする。職員全体の意識をどのように変えていくかがこれからの課題であると感じた。
- ・全教員が理解し、活用できなければならない内容である。
- ・各学校で教員向け、PTA向けなどの研修を実施しなければならないと思う。
- ・各都道府県単位での研修が今後も必要であると思う。
- ・ワークショップで皆で実践例を考えた事は今後使える。参考になった。
- ・今後、研修等を行う際に以前よりも自信を持って行う事が出来ます。
- ・私たちのみならず、全教員が「情報モラルの必要性」を子供たちの実態から感じることから「授業でやってみよう！やらなければ！」と思う事が大切だと思いました。今回の研修で、私自身が情報モラルの必要性を認識する事が出来ました。
- ・3日間の期間が長く初日は午後、3日目は午前だけなので、2日間に短縮しては？ また、長期休業中に開催して欲しい。
- ・長期間にわたるこのような研修はなかなか開催しにくくなっている今、泊をとまうものが非常に有効でした。
- ・職場での現状として、今回研修の内容にあつたような情報に関するトラブルはほとんど見られず、私自身を含め他の先生方にも情報モラルの指導の必要性の実感は無いように思われます。他校種の先生方の話を聞き、本校でも児童生徒に対して情報モラル教育を行う事は必要であると感じました。
- ・1日目は事例やモラル教育の基本的な理念を学ぶことが出来た。
2日目の教材内容例の紹介は、事前に講義受講者の理解度等を把握しておけばより整理でき、充実した研修になるように感じた。
研修カリキュラムを設計したり、ワークショップの仲で協議したりする中で、これからやらなければならない事が少し明確になった。焦らず慌てずしかし、確実に情報モラル教育を広げていきたい。

- ・できれば、それぞれの地域あるいは学校に専門の方が来て、指導してもらう方が良いと思われる。
- ・希望研修より各地域毎に各校2名参加でき研修できる体制予算が必要と思う。
- ・効率的に効果的に児童・職員・保護者に伝えられるか、全力を尽くしたい。
- ・具体的な事例を基にして生徒、保護者に向けたどのような指導が望ましいのかイメージを持つことができた。
- ・教科・学科、専門高校と種別ごとに実践して欲しい。
- ・管理職の参加が必要だと思う。
- ・大会場での講義形式が多かったが、人数を少なく絞ったセミナー形式の方が良かったのではないと思う。またディスカッションや質疑の時間があれば疑問など、解明できる点多かったと思う。指導者養成ということでやりっぱなしではなく、研修を実施できるような現場への教育行政側のバックアップがあれば良いと思った。

【研修運営面について】

- ・会場のネットワーク環境が充分ではなかったようで、講師の方も困っているようであった。本研修の意義・ねらいからすると少し残念です。
- ・ネットワーク環境を充実させて研修をさせてほしい。
- ・会場、机等もう少しゆったりとしたところがほしい（荷物が多いので）
- ・毎回（各セッション毎に）出席簿に押印するのは何故でしょうか？座席も決まっているわけですから必要ないのではないかと思うのですが。
- ・大学入試直前の3日間という日程では参加できる方が限られてくると思います。とても興味深い研修だと思うので、開催時期については少し検討の余地があると思われました。

相談窓口やコミュニティサイトの設置について

1. 未履修者用補講教材サイト

今回の研修は3日間に渡り、10セッションを受講するプログラムとした。このため、業務の都合などで全てのセッションを受講できない方にも映像と教材で補講できるような手段を用意した。当サイトでは、全てのセッションの講義・演習状況のビデオ（初回の名古屋で撮影した）と講義用教材、履修報告書のひな形を用意し、受講できなかった参加者に個別に事務局からサイトURLとID及びパスワードを送付し、学習して頂く事とした。なお、事前にまたは悪意を持った利用を避けるために、各地区での研修終了時から10日間のみ視聴できる仕組みで運用した。

『情報モラル指導者養成』研修動画教材

http://www.cec.or.jp/monbu/21j_moral_data.html

なお、4月以降よりID、パスワードなしで視聴可能である。

項目	題名	資料	履修報告書
1. 背景と研修事業概説	Session 1-1 (144分)	視聴	
	Session 1-2 (15分)	視聴	○
	Session 1-3 (12分)	視聴	
2. 問題意識の共有と事例研究	Session 2 (20分)	視聴	○
	Session 3-1 (20分)	視聴	
3. 情報モラル教育の基本理念と指導	Session 3-2 (12分)	視聴	○
	Session 3-3 (12分)	視聴	
	Session 3-4 (14分)	視聴	
	Session 4-1 (22分)	視聴	
4. 教材制作の目的と基本アライアンス	Session 4-2 (20分)	視聴	○
	Session 4-3 (20分)	視聴	
	Session 4-4 (12分)	視聴	

2. コミュニティサイト

この種の研修会では初めての試みであったが、研修終了後の受講者フォローのための相談窓口を設けるとともに研修受講者同士が意見交換や情報交換が出来るようコミュニティサイトを開設し、運用した。

受講者によっては、学校の共有IDで申込みしている方もいるので、個別に事務局に申請いただき、URLとID及びパスワードを連絡する方式での運用を考えた。

このサイトでは、以下の機能・情報を用意した。

- ・交流掲示板
- ・研修内容への質問の場
- ・研修成果例
各地区で実施したワークショップのアウトプットをグループ毎に整理してアップしている。
- ・ワークシート例
- ・関連施策等

3. 運用の状況と今後

未履修者用補講サイトは一時的な内容であり、今回の試行の中心は2.であるが、

コミュニティサイトと言いながら、極めてクローズな運用をせざるを得なかった。

映像や講義用教材をこのサイトには含めなかった。

専任のオペレータを用意せず器だけ用意した。

開設期間は2月15日から3月30日までと短く限られている。

などから、大きな興味を得るに到らず、高活性を得ることは出来なかった。

しかしながら、今回の研修の成果としてのハンドブックや講義用教材などは、地域からの要望も多く、CECサイトから事業報告とともに情報提供できる環境があり、受講者や資料要求者を引き合わせることも可能であるので、より有効な活用の可能性は高いものと思われる。

平成21年度文部科学省委託事業 情報モラル研修コミュニティサイト

本サイトは、研修会にて実施した「情報モラル指導者養成研修」の受講者同士が、意見交換や情報交換ができる場です。

受講者の自由な意見交換、情報交換の場である「交流掲示板」は、「情報モラル指導者養成研修」実施後に発生した疑問や質問等を受付け、講師が回答する「研修内容への質問の場」を設けました。研修に活発な意見交換を行った者、情報モラル教育の指導力向上の貢献が認められる場合があります。

- 交流掲示板
掲示板入口 (ここをクリックしてください)
- 研修内容への質問の場
本研修に際してご質問がありましたら次の質問欄にてお問い合わせください。
質問フォーム (ここをクリックしてフォームに入力後、送信してください)
- お問い合わせ
本研修会へのお問い合わせは、後日講師より回答として公開いたします。
- 研修成果例
本研修会場で受講者により作成された研修成果例をご紹介します。
研修成果例 (研修成果例のダウンロード) (ダウンロードをクリックしてください)

本事業の成果と課題

1. 各委員からの意見

プレゼンとハンドブックについて

研修用教材としてパワーポイント教材を作ったのは大きな成果である。その教材に読み上げ原稿をつけたのは非常に良かった。短時間で作成したため、内容面では更なる精査が必要であると考えられる。

高等学校については教材が小中学校中心であったこと、それを補説する十分な時間が取れなかったため、今後このような研修を行う場合には小・中・高・特別支援学校について指導内容を充実する必要がある。

【以下は、委員からの意見（原文のまま）】

- ・小中学校、行政の受講者は具体的に理解している様子が伝わってきた。一方、高等学校の受講者は「こんな関係ない」という表情であった。上記2つの違いを生む理由は補助資料が示している事例が「小中の場面」であり、高等学校場面に「置き換えて」示すことをしていなかったこと、高等学校教員の多くは「課題意識（問題意識）」が「自分が担当している校務分掌・教科の範囲」に限って考える傾向が強く、「総則的展開イメージ」を持たせることが難しいこと、高等学校教員の中には、教科横断的指導・学校教育全般の指導の立場にたった経験のない受講者が見られたことが考えられる。
- ・「小中学校の事例を高等学校に適應させる解説」を加えながら行った。これにより、高等学校関係受講者の反応も良くなった。行政（教育センター職員）に対しては、「総則的展開イメージ」を「中堅指導者・管理職研修」の題材を事例として紹介しながら解説をした。
- ・情報モラル指導モデルカリキュラム表は受講者の手元には、A3サイズのカリキュラム表があるのですが、説明する側としてプレゼンで大きく拡大して映せる工夫が必要だと思った。
- ・ハンドブックが主に小中学校の教員を対象とした内容となっていたので、高校教員にとってはもの足りなさや場違い感が生じてしまったかもしれない。
- ・講師プレゼンが資料として冊子にまとめられていましたので、その資料をもとに話をすると、すでに資料にある内容の説明なので、受講者の乗りが悪いように見受けられた。手元の資料にない補足資料を提示すると、メモをとったり、デジカメで撮ったりと関心をもって聞いているように見受けられた。受講者を飽きさせないためにも、補足資料を用意したりビデオ教材を流したり、受講者に考えさせる場を設けたり工夫が求められると再確認しました。

研修内容について

諸般の事情によりカウンセリングのプログラムが中間に入ってしまう、指導内容から具体的な内容に入ってワークショップにという流れが途切れてしまった。そこは改善の必要がある。また、セッション2「問題意識の共有と事例研究」では地域のプログラムを入れた会場があったので、全体の流れが途切れたところもあった。特に時間配分については研修実施中も柔軟に改善を図った。

【以下は、委員からの意見（原文のまま）】

- ・文部科学省からの概況説明および動機付けにより志気が高まった。
- ・理念や指導概念に関する重複的な説明があった。
- ・セッション1「背景と研修事業概説」は「禁止教育ではないこと」を明示していただいたので、情報モラル教育は「禁止させるための教育ではなかったのか?」ということを理解していただいたが、セッション2「問題意識の共有と事例研究」は地元の警察関係の話で、「触法的事例」の解説が多かった。そういった事例を「知ること」は重要である

- が、セッション1とセッション3「情報モラル教育の基本理念と指導」の「非禁止教育」と相容れない部分が多く「受講者を混乱させる要因」となった。
- ・もう少し問題事例と照らし合わせながら、理念を解説できる時間がほしい。
 - ・セッション2「問題意識の共有と事例研究」は問題意識の共有が本旨でしたので、情報モラル教育の意義、すべての教員に情報モラル教育を展開していただく意義、校内研修等で効果的な研修を行うための講師養成を担っている本研修事業の意義について、把握できるように話した。社会的な状況についての統計資料の見方、自前で作る場合の作り方の説明、テキストの構成と事例の扱いなど、スライド教材に沿って説明した。盛りだくさんの内容に緊張していたが、講師用PPT教材にはノート(ト書き)が付加されていることをお話しすると、安堵の表情が伺えた。
 - ・情報モラル教育の意義、すべての教員に情報モラル教育を展開していただく意義、校内研修等で効果的な研修を行うための講師養成を担っている本研修事業の意義について、把握できるように話した。
 - ・セッション3「情報モラル教育の基本理念と指導」では、情報モラル指導モデルカリキュラム表の構成の理解と、それに沿った指導の在り方について、学び、考えていただいた。「人を信じる、信じ合う」というモラルと、「悪人がいるから軽率に人を信じない」という安全教育を同時には展開できないこと、そのために倫理と法の理解に関するモラル(心を磨く)と情報安全とセキュリティに関する安全教育(知恵を磨く)を分けてあること、それらをつなぐものとしての公共的なネットワーク社会の構築の領域の役割など、説明によってほぼ納得いただけた。
 - ・セッション4「教材内容例と基本的な指導事項」では教材内容の紹介を中心に進めていったが、「セッション3「情報モラル教育の基本理念と指導」との重複の説明」を多くしてしまった。本来、このセッションのねらいは「理念と指導概念に基づく(準拠する)資料を紹介することを通して、受講者に『情報モラル指導の基本的な指導事項のイメージ化』をすること」であったはずが、「理念の2度づけ」、「くどい説明」になっていた。

今後はセッション4は、ざっくりと『指導例紹介』とし、「指導事例をじっくり見る 教えどころをイメージ化する それに使うことができる教材を知る 教材を体験する」にしたらいいのではないか。
 - ・セッション4「教材内容例と基本的な指導事項」では動画教材は、実際に見てみたいとわかりにくいので、できるだけ動画教材は講師の方で見せるようにした。
 - ・セッション5「カウンセリングについて」では用意されたスライドの中のネットいじめへの対処法の部分以外は個人的に用意した補足資料をもとに話をした。主な内容は被害に遭ってしまった時の基本的な対応及び具体的な被害事例に対する対策について紹介した。具体的な話だったので、受講者も関心をもって聞いていたと思います。
 - ・セッション5「カウンセリングについて」の資料に書かれていること、プレゼンの資料共に、「他のものと『異質な感じがする』」、「悩みを解決する『カウンセリング』」、「問題解決のための『聞き取り調査』」、「生徒指導的『懇談』」が、混在的になっている。「悩みを解決する『カウンセリング』」は、「情報モラル教育」の本質的部分ではないので以後は、必要ないと考える。カウンセリングは「実態把握のためのアンケートの方法」とか「問題事例の客観的判断のための『聞き取り調査の仕方』」、また、少し発展的で、本来の情報モラル教育的ではないが、「問題事例に対応するための具体的な対応ワークショップ」などに切り替えるべきだと考える。
 - ・研修設計に先立ち、研修内容の範囲を示す補助資料を提示した。これを提示することにより、バランス良く様々な観点での研修計画を立案させることができた。
 - ・小中学校、行政の参加者は、上記に関して最後まで意欲的に取り組むことができたが、高等学校教員は、「指導場面のイメージ化」の段階から、「やや乗り遅れがち」になる。その理由は、「指導場面が違いすぎる」ということだった。話を何うと「参加者個々が直面する、『今の課題』が違いすぎる」ということであった。
 - ・高等学校教員のニーズは、「生徒指導的情報モラル教育」への期待が高く、一般生徒に対してどうこうではなく、「こういう問題にはこういう指導が・・・」といった、即時

即効性のあるものを期待している部分が多く見られた。

- ・小学校グループ：セッション8「研修実施ワークショップ」でセッション6「各教科・道徳等での指導方法」が有効に働き、「各教科の中でできる『情報モラル指導』」について取り組むグループが見られた。
- ・中学校グループ：総則的アプローチによって、「学校教育全般にわたって情報モラルの意識を高める研修」を策定するグループが見られた。
- ・高等学校グループ：情報モラル教育の基礎的な部分を「再確認しながら、具体的『課題（問題）に対応する力』を養う研修」を策定することができた。補助資料（添付 P.P.T）で、「課題（問題）解決への指導にも理念的バックボーンが必要である」ことを解説し、「高等学校関係者のニーズと合致した研修内容」を考えさせることができた。
- ・特別支援学校グループ：危機回避的指導の場面が多いこの校種では、「教員の情報モラル向上 児童生徒への指導の向上」という形で考えさせていった。それによって、「校内研修でまず、自分達の意識を向上させ、それに基づいて個々の児童生徒にあった指導を生み出す」研修が計画された。
- ・行政（教育センター）グループ：指導主事を中心とするこのグループでは、「管理職向け研修」、「中堅リーダー研修」、「職務能力向上研修（担当者研修）」に分かれて取り組んだ。研修を本務とするだけ有り、短い時間で質の高い研修計画ができあがった。
- ・セッション8「研修実施ワークショップ」で研修カリキュラムを作成するワークショップがあるが、自分で簡単な教材を検討する場が設定されていないので、この場で少し検討させる時間をとって良かったように思った。
- ・セッション8「研修実施ワークショップ」のワークショップの前、あるいはその中の初めに、自校の課題について話し合い、その解決方策として、研修を考えるという流れがあれば、スムーズだったと思う。流れとしては、「1 個人で自校の課題とその解決方法を書く」「2 グループで情報を交換しあう」「3 明日からの取り組み（決意表明）」と進めたのですが、2のグループで情報を交換しあうが中心となっていた。
- ・セッション9「研修成果の発表と討論」での発表会を小研修室3つ利用することができたため、各校種の発表会を6会場で行うことができた。他の発表の雑音が入らず、各校種に別れて、すべてのグループが発表できたことは大変良かったと思いました。また、グループ毎にネットワークが使えたことも大変助かった。
- ・セッション9「ワークショップの発表と討論」では、小学校の方が、「情報倫理」「情報安全」にまたがる研修であったのに対し、中高になると「情報安全」主体の研修になっていました。喫緊の課題として、中・高では生徒指導的に今起きている問題への対応というスタンスが強く出ていることによるものと思う。特別支援学校の研修については、特別支援学校ならではの状況があり、今回の研修の中では、一般的な情報モラル指導についての指導については取り上げられているものの、特別支援学校ならではの課題についての説明が不足していると感じた。知的障害を持つ児童・生徒への情報モラル指導については、今後の検討課題であると思った。

実施方法について

研修全体の時間が長いので、座学だけでなくワークショップを入れたことが功を奏し、アイデアが出されるとともに今後の研修実施につながる課題抽出と課題解決策などの問題点の整理などがスムーズに進められた。

ワークショップの実施については事前にリーダーを決めて進めた。

ワークショップにはグループに1台のPCを使える環境にし、1グループの人数は講師の経験から6名程度とした。結果的には活性化につながった。なお、PCはネットにつながる環境で使用できるようにしたが、会場の都合により実現しなかった会場があり、これは今後の課題といえる。ワークショップは校種別にグループ分けて実施されたので非常に活性化した。持ち帰って生かすことができる内容になったと思った。高校についてはワークショップにおいて指導者研修であるということを強調する必要があったかも知れない。

【以下は、委員からの意見（原文のまま）】

- ・アイスブレイキングとしてワークショップを行うグループ内での自己紹介を実施。はじめは緊張していたが、座席配置での配慮も奏功してか直に打ち解けて和やかな雰囲気となった。
- ・セッション10の決意表明は「書く」という部分を中心にしても良いと感じました。研修最後のセッションということで、各グループのコミュニケーションはスムーズに進んでおり、各自が課題を意識するとともに、他の受講者の意見も聞くことで、新たに課題を意識できるということがあるほか、セッション9「ワークショップの発表と討論」での様々な研修の考え方が生かされる有効な時間だったと思います。
- ・セッション9「ワークショップの発表と討論」のワークショップの発表では各グループに、リーダーを置いたことで、内容のとりまとめ、発表はスムーズに進んだ。一方、その方の持っている経験、課題に左右される面があったように感じた。グループ構成の時に、悩む点だと思えますが、指導者養成ということで、幅広く校内のリーダーを育てるときには、各班が均等な割り振りであることは妥当だと感じた。研修形態は、より現実的な提案をしているグループもあった。すでに校内で取り組んできている方にとっては、研修場面、時間をどう確保するかということが大きな課題であることを踏まえた上での、日常化、ポイント化が図られていた。良いアイデアを提案していただいていると感じた。発表の方法は、模擬的に研修場면을構成されるなど、工夫が見られた。参加される先生方の個性が表れている部分でもあると思った。
- ・セッション10「自校の課題解決方策に関する討議と決意表明」では、研修を考える中ですでに話し合われているグループも多数ありました。
- ・理論編（講義）と実践編（ワークショップ）、成果発表までをコンパクトにまとめた構成で、参加者が校内研修カリキュラムを立案する上でも参考になったと思う。2日目前半までで学んだことを、その後のワークショップを通じて自身の言葉で解釈し発表内容にまとめる過程で、研修後に自校で指導者として実践するための訓練になったと感じる。もちろん、実際に指導者として各校で取り組む段階になると、3日間の研修内容だけでは不足する知識もあろうかと思うが、CECホームページで提供される資料や、コミュニティサイトでの交流を通じた支援があることから、受講者が継続的に課題に取り組むことを期待したい。

その他

その他として下記の意見が委員から寄せられた。

【以下は、委員からの意見（原文のまま）】

1) 研修会場について

- ・130名を超える参加者でしたが、会場に恵まれ、全体的にスムーズに進めることができた。ワークショップ以外は、収容人数の多い、段差のある大きな会場で行うことができ、講義をするのに適していた。
- ・研修会場は講師側の1台しかネットワークが繋がっておらず、しかもそのネットワークが無線で、つながりが悪く、講演にも支障がでた。少なくとも講師側のパソコンはネットワークが快適に利用できるものにして欲しい。
- ・問題意識を高めるために、インターネット上の有害情報の事例として、アダルトサイトばかりではなく、プロフィールサイト、出会い系サイト（無料ゲームサイトを含む）、少女や少年を性的なターゲットとした下着販売・モデル勧誘など児童福祉法・青少年健全育成条例違反のサイトなどの事例も紹介し、暴力や残虐な映像を晒す鬼畜サイトなども含めて、児童生徒にとって有害な情報から守るためにフィルタリングや教師・保護者による監視と教育指導の必要性を実感してもらった。
- ・講義が中心でしたので、8分程度のビデオを見せたところ、熱心に視聴していた。やはり児童生徒の姿を映像を通して見ることにより、教師のプロ意識が喚起されること、情報モラル指導のイメージが具体的に把握しやすくなることなど、映像の威力を感じた。

今後類似の研修の際にも児童生徒の姿を入れたビデオの活用を図ることを推奨する。

2) 参加者の構成

- ・参加者に高校教員が多かった。
- ・参加者を校種別に大きく分けると、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、教育委員会等になります。情報モラルの全体像をつかんだり、他校種の関わりを知ったりする上では有意義ですが、自分の校種に関わる内容をより広く、深く身につけるためには効率が悪いように思う。これについては一長一短があり、何ともいえないが、話しをするときも、各校種に気を遣った話し方となった。
- ・参加者の5割以上が他県の教育委員会、教育センターの方々でした。指導者研修のターゲットを現場の教員にするのか、教育委員会や教育センターの行政の方々にするのか絞った方が効率よく研修ができ、良いように感じました。研修対象を絞り、研修日程も1泊2日で終わられるような工夫が必要かと思う。
- ・小・中・高・特別支援学校・教委と、校種・職種が混在する研修であり、しかも他の都道府県からの参加者も混じったが、相互の違いを認識した上でワークショップに取り組み、意見をぶつけたり調整する中で各人の成果を持ち帰っていただけたと思う。

特に校種が様々だったことは、小学校低学年から高等学校までを対象とする「情報モラル指導モデルカリキュラム表」を体感的に理解する上で有効だったと感じた。例えば高校教諭は、普段接する生徒が小中学校でどのように情報モラルの指導を受けてきたか把握することで、自校での体系的・系統的な指導を担保することの意義が理解できたのではないかと感じる。

また、異なる都道府県からの参加は、特に教委からの参加者にとって大いに刺激となったようである。都道府県教委毎に地域の実情に合わせた情報モラル指導に取り組んできたことを、ワークショップで他教委に披露し意見交換できたことは、良いベンチマーク機会であり今後の取り組みへの示唆が得られたと考えられる。

- ・会場によっては教育委員会の取り組みが、参加した教諭達に浸透していなかったことが図らずも露呈するといった副産物も得られたが、これらは情報モラル指導者養成に限らず、施策を現場へ展開する難しさを認識させ、一層の工夫を促す機会につながることを期待する。

3) 開催時期について

- ・研修時期はやはり教員が出張に出やすい夏休みや冬休みにする方がいいように思った。
- ・今回の研修は、連続した3日間だったが、途中で学校での実践等も入れた3日間のスケジュールを考えると、より具体的な情報モラル教育推進に向けての取り組みが期待できると感じた。

受講者の経験の差による研修計画の作り方が見られたのですが、実際に学校や地域での研修を経験することで、セッション9「ワークショップの発表と討論」がより具体的なものになると思われる。

(2) 成果と課題

個別の成果と課題については、(1)で各委員からの意見を集約して述べたため、ここでは総括的な成果と課題について述べる。

1) 情報モラル教育研修会の講師となり得る人材を全都道府県に養成

本指導者養成研修会を、北海道、青森県、千葉県、愛知県、大阪府、高知県、福岡県の7道府県で実施し、近隣の都道府県はもとより広く全国からの参加も可能としたため、47都道府県すべてから、指導主事・教職員など合計592名もの受講者が参加し、各地域・各学校において彼らが講師となって情報モラル教育に関する研修会を実施し、すべての学校においてすべての教員が情報モラル教育を実施できるようにする素地を育むことができた。今後、受講者がピラミッド型研修体制の上層部となって、次の層の指導者を育成し、情報モラル教育の適切な実践を広げていくことを期待したい。

2) 情報モラル教育指導者養成研修会用研修プログラムと教材の開発

これまで児童生徒向けや一般教職員向けの情報モラル教育に関する教材は提供されていたが、情報モラル教育研修会の講師となる「指導者養成」のための研修カリキュラムやそのための教材はなかった。

本委員会では、情報モラル指導者養成研修のプログラムを開発すると共に、その中で講師が使うテキストと読み上げ原稿付きプレゼンテーション教材を開発することができた。

これらにより、各地域・各学校において情報モラル指導者養成研修会を実施することに対する非常に有効なツールを提供できるようになった。

3) 情報モラル教育指導者養成研修会の自立展開支援が課題

上記1) 2)の通り、情報モラル教育指導者養成研修会を各地域・各学校で実施する素地はできたものの、今後、情報モラル教育を適切に実施可能な教員を急速に増加させるためには、本研修会受講者のみが講師となるのではなく、本研修会に参加することができなかった指導主事・教職員も指導者養成研修会を実施できるように、自立展開への支援を行っていくことが必要である。

そのためには、本研修会受講者限定で公開していた研修プログラム、研修テキスト、読み上げ原稿付きプレゼンテーション教材、ワークシートを、Webページ等で提供することが望まれる。

また、遠隔地の受講希望者や多忙で勤務地を離れることのできない受講希望者のために、本研修会で作成した各セッションごとの研修会記録映像を提供し、疑似e-Learning教材として、視聴できるようにすることも望まれる。

付録 1 . プレゼンテーション用補助資料

付録2．アンケート調査票

情報モラル指導者研修アンケート

< 会場 >

1．受講者プロフィール

- (1) 所属 学校（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校） 行政
 (2) 職名 校長 副校長・教頭 教諭 指導主事 その他（ ）
 (3) 主たる分掌分野 教科指導・生徒指導・教務・情報教育・研修・管理・その他（ ）
 (4) 教科 小学校・情報・技家・国語・社会・数学・理科・英語・音楽・美術・書道・
 保体
 その他（ ）
 (5) 性別年齢 男・女、（ ）歳

2．本研修会全般についてお尋ねします。

- (1) 今回の研修会は今後の情報モラル指導の参考に
 なりますか？ (5段階で評価してください。)
 参考になる - - - - 参考になら
 ない 5 3 1
- (2) 「情報モラル指導者研修ハンドブック」は
 今後の参考になりますか？ 参考になる - - - - 参考になら
 ない 5 3 1
- (3) 研修内容の難易度を評価してください。 高レベル - - - - 低レベル
 5 3 1
- (4) 研修内容で良かったと思うものに印をつけてください。(複数選択可)
 1．背景と研修事業概説 6．各教科・道徳等での指導方法
 2．問題意識の共有と事例研究 7．研修カリキュラム設計、指導方法
 3．情報モラル教育の基本理念と指導 8．研修実施ワークショップ
 4．教材内容例と基本的な指導事項 9．ワークショップの発表と討論
 5．情報モラルに関するカウンセリング 10．自校の課題解決策に関する討議と
 について 決意表明
- (5) 過去に同様のセミナーに参加したことがありますか？ ある ない

3．担当の学校や地域での情報モラル指導に関する教員研修についてお尋ねします。

- (1) 過去に情報モラルに関連した教員研修の
 企画担当者か指導者となったことがありますか？ ある ない
- (2) 本研修会の内容は今後の教員研修の実施の
 際の参考になりますか？ 参考になる - - - - 参考にならない
 5 3 1

4．その他ご感想やご意見がありましたらご記入ください。

付録3．アンケート集計表（地域別）

全会場統計

受講者プロフィール

所属		未記入は0を投入
行政	134	
小学校	95	
中学校	82	
高等学校	141	
特別支援学校	39	
未記入	4	
総数	492	

職名		未記入は0を投入
校長	3	
副校長	0	
教頭	6	
教諭	309	
指導主事	130	
その他	40	
未記入	4	
総数	492	

主たる分野		未記入は0を投入
教科指導	47	
生徒指導	87	
教務	57	
情報教育	217	
研修	27	
管理	10	
その他	29	
未記入	21	
総数	492	

教科	
小学校	100
情報	89
数学	61
国語	14
社会	17
科学	38
理科	48
英語	15
音楽	3
美術	4
書道	0
保健	21
その他	50
未記入	35
総数	492

年齢層		未記入は0を投入
20代	34	
30代	110	
40代	267	
50代	60	
未記入	21	
総数	492	

男女比		未記入は0を投入
男性	431	
女性	55	
未記入	6	
総数	492	

2. (1) 今回の研修会は今後の情報モラル指導の参考になりますか？

参考になる	5	345	70.1%
	4	118	24.0%
	3	20	4.1%
	2	5	1.0%
参考にならない	1	1	0.2%
未記入		3	0.6%
総数		492	

2. (2) 「情報モラル指導者研修ハンドブック」は今後の参考になりますか？

参考になる	5	396	80.5%
	4	83	16.9%
	3	8	1.6%
	2	1	0.2%
参考にならない	1	1	0.2%
未記入		3	0.6%
総数		492	

2. (3) 研修内容の難易度を評価してください。 (未記入は0)

高レベル	5	51	10.4%
	4	179	36.4%
	3	237	48.2%
	2	14	2.8%
低レベル	1	1	0.2%
未記入		10	2.0%
総数		492	

2. (4) 研修内容で良かったと思うものに印をつけてください。(複数回答可)

セッション1	背景と研修事業概況	169	34%
セッション2	問題意識の共有と事例研究	245	50%
セッション3	情報モラル教育の基本理念と指導	321	65%
セッション4	教材内容例と基本的な指導事項	290	59%
セッション5	情報モラルに関するカンセツガ	146	30%
セッション6	各教科・道徳等での指導方法	254	52%
セッション7	研修カリキュラム設計、指導方法	193	39%
セッション8	研修実施ワークショップ	224	46%
セッション9	ワークショップの意義と評価	196	40%
セッション10	各校の課題解決方策に関する討議	77	16%
総数		492	

2. (5) 過去に同様のセミナーに参加したことがありますか？

ある	63	12.8%
ない	427	86.8%
未記入	2	0.4%
総数	492	

3. (1) 過去に情報モラルに関連した教員研修の企画担当者か指導者となったことがありますか？

ある	157	31.9%
ない	332	67.5%
未記入	3	0.6%
総数	492	

3. (2) 本研修会の内容は今後の教員研修の実施の際の参考になりますか？

参考になる	5	316	64.2%
	4	139	28.3%
	3	27	5.5%
	2	6	1.2%
参考にならない	1	1	0.2%
未記入		3	0.6%
総数		492	

愛知会場

受講者プロフィール

所属

行政	10
小学校	16
中学校	12
高等学校	24
特別支援学校	9
未記入	0
総数	71

年齢層

20代	9
30代	10
40代	36
50代	12
未記入	4
総数	71

男女比

男性	67
女性	4
未記入	0
総数	71

2. (1) 今回の研修会は今後の情報モラル指導の参考になりますか？

参考になる	5	53
	4	16
	3	0
	2	1
参考にならない	1	0
未記入		1
総数		71

2. (2) 「情報モラル指導者研修ハンドブック」は今後の参考になりますか？

参考になる	5	61
	4	9
	3	0
	2	0
参考にならない	1	0
未記入		1
総数		71

2. (3) 研修内容の難易度を評価してください。

高レベル	5	7
	4	32
	3	30
	2	1
低レベル	1	0
未記入		1
総数		71

2. (4) 研修内容で良かったと思うものに印をつけてください。(複数回答可)

総数	セッション1	セッション2	セッション3	セッション4	セッション5	セッション6	セッション7	セッション8	セッション9	セッション10
71	20	46	46	44	23	35	26	30	20	8
	28.2%	64.8%	64.8%	62.0%	32.4%	49.3%	36.6%	42.3%	28.2%	11.3%

2. (5) 過去に同様のセミナーに参加したことがありますか？

ある	11
ない	60
未記入	0
総数	71

3. (1) 過去に情報モラルに関連した教員研修の企画担当者か指導者となったことがありますか？

ある	23
ない	48
未記入	0
総数	71

3. (2) 本研修会の内容は今後の教員研修の実施の際の参考になりますか？

参考になる	5	46
	4	23
	3	0
	2	2
参考にならない	1	0
未記入		0
総数		71

高知会場

受講者プロフィール

所属

行政	29
小学校	17
中学校	16
高等学校	13
特別支援学校	4
未記入	2
総数	81

年齢層

20代	2
30代	13
40代	48
50代	15
未記入	3
総数	81

男女比

男性	331
女性	49
未記入	4
総数	384

2. (1) 今回の研修会は今後の情報モラル指導の参考になりますか？

参考になる	5	25
	4	38
	3	14
	2	3
参考にならない	1	0
未記入		1
総数		81

2. (2) 「情報モラル指導者研修ハンドブック」は今後の参考になりますか？

参考になる	5	48
	4	27
	3	5
	2	0
参考にならない	1	0
未記入		1
総数		81

2. (3) 研修内容の難易度を評価してください。

高レベル	5	5
	4	18
	3	53
	2	5
低レベル	1	0
未記入		0
総数		81

2. (4) 研修内容で良かったと思うものに印をつけてください。(複数回答可)

総数	セッション1	セッション2	セッション3	セッション4	セッション5	セッション6	セッション7	セッション8	セッション9	セッション10
81	28	37	36	21	22	19	16	33	31	9
	34.6%	45.7%	44.4%	25.9%	27.2%	23.5%	19.8%	40.7%	38.3%	11.1%

2. (5) 過去に同様のセミナーに参加したことがありますか？

ある	8
ない	72
未記入	1
総数	81

3. (1) 過去に情報モラルに関連した教員研修の企画担当が指導者となったことがありますか？

ある	26
ない	54
未記入	1
総数	81

3. (2) 本研修会の内容は今後の教員研修の実施の際の参考になりますか？

参考になる	5	32
	4	29
	3	15
	2	3
参考にならない	1	1
未記入		1
総数		81

北海道会場

受講者プロフィール

所属

行政	7
小学校	6
中学校	10
高等学校	25
特別支援学校	2
未記入	0
総数	50

年齢層

20代	8
30代	15
40代	24
50代	2
未記入	1
総数	50

2. (1) 今回の研修会は今後の情報モラル指導の参考になりますか？

参考になる	5	37
	4	12
	3	1
	2	0
参考にならない	1	0
未記入		0
総数		50

2. (2) 「情報モラル指導者研修ハンドブック」は今後の参考になりますか？

参考になる	5	43
	4	7
	3	0
	2	0
参考にならない	1	0
未記入		0
総数		50

2. (3) 研修内容の難易度を評価してください。

高レベル	5	6
	4	27
	3	16
	2	1
低レベル	1	0
未記入		0
総数		50

2. (4) 研修内容で良かったと思うものに印をつけてください。(複数回答可)

総数	セッション1	セッション2	セッション3	セッション4	セッション5	セッション6	セッション7	セッション8	セッション9	セッション10
50	17	30	35	28	21	36	13	20	10	4
	34.0%	60.0%	70.0%	56.0%	42.0%	72.0%	26.0%	40.0%	20.0%	8.0%

2. (5) 過去に同様のセミナーに参加したことがありますか？

ある	5
ない	45
未記入	0
総数	50

3. (1) 過去に情報モラルに関連した教員研修の企画担当者か指導者となったことがありますか？

ある	7
ない	43
未記入	0
総数	50

3. (2) 本研修会の内容は今後の教員研修の実施の際の参考になりますか？

参考になる	5	30
	4	16
	3	4
	2	0
参考にならない	1	0
未記入		0
総数		50

青森会場

受講者プロフィール

所属

行政	30
小学校	28
中学校	15
高等学校	22
特別支援学校	7
未記入	1
総数	103

年齢層

20代	6
30代	35
40代	53
50代	5
未記入	4
総数	103

2. (1) 今回の研修会は今後の情報モラル指導の参考になりますか？

参考になる	5	87
	4	15
	3	0
	2	0
参考にならない	1	0
未記入		1
総数		103

2. (2) 「情報モラル指導者研修ハンドブック」は今後の参考になりますか？

参考になる	5	92
	4	10
	3	0
	2	0
参考にならない	1	0
未記入		1
総数		103

2. (3) 研修内容の難易度を評価してください。

高レベル	5	14
	4	33
	3	52
	2	0
低レベル	1	0
未記入		4
総数		103

2. (4) 研修内容で良かったと思うものに印をつけてください。(複数回答可)

総数	セッション1	セッション2	セッション3	セッション4	セッション5	セッション6	セッション7	セッション8	セッション9	セッション10
103	33	60	73	74	25	52	48	45	39	11
	32.0%	58.3%	70.9%	71.8%	24.3%	50.5%	46.6%	43.7%	37.9%	10.7%

2. (5) 過去に同様のセミナーに参加したことがありますか？

ある	15
ない	87
未記入	1
総数	103

3. (1) 過去に情報モラルに関連した教員研修の企画担当者か指導者となったことがありますか？

ある	31
ない	70
未記入	2
総数	103

3. (2) 本研修会の内容は今後の教員研修の実施の際の参考になりますか？

参考になる	5	73
	4	27
	3	1
	2	0
参考にならない	1	0
未記入		2
総数		103

福岡会場

受講者プロフィール

所属

行政	19
小学校	14
中学校	12
高等学校	28
特別支援学校	6
未記入	0
総数	79

年齢層

20代	1
30代	20
40代	45
50代	11
未記入	2
総数	79

2. (1) 今回の研修会は今後の情報モラル指導の参考になりますか？

参考になる 5	65
4	13
3	1
2	0
参考にならない 1	0
未記入	0
総数	79

2. (2) 「情報モラル指導者研修ハンドブック」は今後の参考になりますか？

参考になる 5	70
4	8
3	1
2	0
参考にならない 1	0
未記入	0
総数	79

2. (3) 研修内容の難易度を評価してください。

高レベル 5	12
4	31
3	33
2	0
低レベル 1	0
未記入	3
総数	79

2. (4) 研修内容で良かったと思うものに印をつけてください。(複数回答可)

総数	セッション1	セッション2	セッション3	セッション4	セッション5	セッション6	セッション7	セッション8	セッション9	セッション10
79	37	33	53	55	30	64	45	37	42	22
	46.8%	41.8%	67.1%	69.6%	38.0%	81.0%	57.0%	46.8%	53.2%	27.8%

2. (5) 過去に同様のセミナーに参加したことがありますか？

ある	11
ない	68
未記入	0
総数	79

3. (1) 過去に情報モラルに関連した教員研修の企画担当者か指導者となったことがありますか？

ある	28
ない	51
未記入	0
総数	79

3. (2) 本研修会の内容は今後の教員研修の実施の際の参考になりますか？

参考になる 5	60
4	17
3	2
2	0
参考にならない 1	0
未記入	0
総数	79

大阪会場

受講者プロフィール

所属

行政	17
小学校	14
中学校	11
高等学校	17
特別支援学校	5
未記入	1
総数	65

年齢層

20代	7
30代	12
40代	33
50代	8
未記入	5
総数	65

2. (1) 今回の研修会は今後の情報モラル指導の参考になりますか？

参考になる	5	51
	4	10
	3	2
	2	1
参考にならない	1	1
未記入		0
総数		65

2. (2) 「情報モラル指導者研修ハンドブック」は今後の参考になりますか？

参考になる	5	49
	4	12
	3	2
	2	1
参考にならない	1	1
未記入		0
総数		65

2. (3) 研修内容の難易度を評価してください。

高レベル	5	5
	4	21
	3	32
	2	5
低レベル	1	1
未記入		1
総数		65

2. (4) 研修内容で良かったと思うものに印をつけてください。(複数回答可)

総数	セッション1	セッション2	セッション3	セッション4	セッション5	セッション6	セッション7	セッション8	セッション9	セッション10
65	22	25	47	37	14	30	32	35	34	19
	33.8%	38.5%	72.3%	56.9%	21.5%	46.2%	49.2%	53.8%	52.3%	29.2%

2. (5) 過去に同様のセミナーに参加したことがありますか？

ある	6
ない	59
未記入	0
総数	65

3. (1) 過去に情報モラルに関連した教員研修の企画担当者か指導者となったことがありますか？

ある	24
ない	41
未記入	0
総数	65

3. (2) 本研修会の内容は今後の教員研修の実施の際の参考になりますか？

参考になる	5	51
	4	10
	3	3
	2	1
参考にならない	1	0
未記入		0
総数		65
	4	0
	3	0
	2	0
参考にならない	1	0
未記入		0
総数		65

千葉会場

受講者プロフィール

所属

行政	22
小学校	0
中学校	6
高等学校	12
特別支援学校	3
未記入	0
総数	43

年齢層

20代	1
30代	5
40代	28
50代	7
未記入	2
総数	43

2. (1) 今回の研修会は今後の情報モラル指導の参考になりますか？

参考になる 5	27
4	14
3	2
2	0
参考にならない 1	0
未記入	0
総数	43

2. (2) 「情報モラル指導者研修ハンドブック」は今後の参考になりますか？

参考になる 5	33
4	10
3	0
2	0
参考にならない 1	0
未記入	0
総数	43

2. (3) 研修内容の難易度を評価してください。

高レベル 5	2
4	17
3	21
2	2
低レベル 1	0
未記入	1
総数	43

2. (4) 研修内容で良かったと思うものに印をつけてください。(複数回答可)

総数	セッション1	セッション2	セッション3	セッション4	セッション5	セッション6	セッション7	セッション8	セッション9	セッション10
43	12	14	31	31	11	18	13	24	20	4
	27.9%	32.6%	72.1%	72.1%	25.6%	41.9%	30.2%	55.8%	46.5%	9.3%

2. (5) 過去に同様のセミナーに参加したことがありますか？

ある	7
ない	36
未記入	0
総数	43

3. (1) 過去に情報モラルに関連した教員研修の企画担当者か指導者となったことがありますか？

ある	18
ない	25
未記入	0
総数	43

3. (2) 本研修会の内容は今後の教員研修の実施の際の参考になりますか？

参考になる 5	24
4	17
3	2
2	0
参考にならない 1	0
未記入	0
総数	43
4	0
3	0
2	0
参考にならない 1	0
未記入	0
総数	43

付録4. 情報モラル指導者養成研修開催要項

21生参情第21号
平成21年12月22日

各都道府県・指定都市教育委員会
指導事務主管課長 殿

文部科学省生涯学習政策局
参事官(学習情報政策担当)
齋藤 晴 加



(印影印刷)

学校における情報モラル等教育の推進事業(指導者養成事業)について

社会の情報化が進展する中で、情報化の「影」の部分をも十分理解した上で、情報社会に積極的に参画する態度を育てることは、今後ますます重要になります。また、携帯電話やパソコンなどを通じたインターネット利用が急速に児童生徒の間にも広がる中で、インターネット上での誹謗中傷やいじめ、犯罪や違法・有害情報などの問題が発生しており、「情報モラル」について指導することが必要となっています。

これらを踏まえ、文部科学省では、小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改訂により、「情報モラル教育」の充実を図ることとし、小学校・中学校においては今年度から、高等学校・特別支援学校においては来年度から、それぞれ一部先行実施を行う移行期間中から指導することとしています。

このため、今後は、各教科科目の授業において、それぞれのねらいに即した学習活動の中で、情報モラルを確実に身に付けさせる指導を行うことが必要であり、教員一人一人がそのための指導力を確実に高めていくことが重要となります。

については、文部科学省においては今年度、情報モラル教育の充実のため、指導主事及び教員を対象とした情報モラル教育の指導者養成研修を実施することとしましたので、貴地域の指導主事及び教員(情報教育担当、教務担当、生徒指導担当等)の積極的な研修への参加をお願いします。

都道府県にあってはお手数ですが、城内市区町村へ周知願います。

担 当
文部科学省 生涯学習政策局
参事官付 情報リテラシー係
田 中
TEL 03-5253-4111 (内2086)
FAX 03-6734-3712
e-mail t-tanaka@mext.go.jp

21教ネ第83号
平成21年12月17日

都道府県・政令指定都市教育委員会
指導事務主管課長 殿

財団法人 コンピュータ教育開発センター
理事長 赤堀 侃司
(公印省略)

平成21年度文部科学省委託事業
「情報モラル指導者養成研修」の開催について(ご案内)

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

当財団では平成21年度文部科学省委託事業といたしまして「学校における情報モラル等教育の推進事業(指導者養成事業)」を受託し、7地域の教育委員会のご協力の下「情報モラル指導者養成研修」を開催いたします。

近年、子どもたちにとって、コンピュータや携帯電話、インターネットなどのICTがごく身近で日常的に活用できるものになり、情報化社会の良さを享受できるようになった反面、出会い系サイト・プロフなどを通じた犯罪被害、ネットいじめなど、いわゆる「情報化の影の部分」もこれまで以上に顕在化しています。教育現場ではICTを積極的かつ適切に活用しつつ、正しく判断しながら「情報化の影の部分」を回避することを可能にする情報モラル教育を充実させることが喫緊の課題となっています。このような状況から、新学習指導要領においても、各教科等及び道徳における指導の中で、情報モラル教育の充実に関する事項が規定されています。

情報モラル教育の充実のためには、情報教育担当教員の努力のみならず、学校全体で全ての教員が情報モラル教育に取り組んでいくことが重要であると考えております。校内研修等を通して学校全体で向上に取り組み、その活性化を促すリーダーを育成するための研修、指導者となる人材の育成を目指す研修を別添の開催要項により開催いたします。

本研修では研修受講者が、その地域や学校での研修を実際に計画できるような研修内容とするとともに、研修受講者のコミュニティを構成することにより、本研修終了後も情報交換や教材の共有、悩みの相談・問題解決などを通して、情報モラル教育の推進に寄与することを目的としております。

皆様方にはご多忙中とは存じますが、多くの方の申込みを賜りますよう管下の教育委員会、教育センター、学校への周知方お願い申し上げます。

以上

「情報モラル指導者養成研修」

開催要項

1. 開催日程 (別紙 研修プログラム参照)
 - (1) 研修の参加は原則として、全研修日程の受講を必須とします。
 - (2) ただし、やむを得ない事情等により全日程を受講できない場合には所属長からの理由書もしくは欠席届を提出していただきます。
なお、未受講の内容について、研修の実際を撮影した映像を、研修終了日以降(開催地域によっては事前)に、オンデマンドで、またはDVDにより視聴することが可能です。
 - (3) また、3日間通じて受講できない方でも申込みを受け付けますが、会場の定員超過の場合はお断りすることがあります。
2. 開催場所 全国7地域 (別紙受講申込書内に記載)
3. 定員 1地域 100名
4. 受講対象 指導主事、教員(情報教育担当、教務担当、生徒指導担当等)の方とさせていただきます。
5. 主催 文部科学省
6. 共催 財団法人コンピュータ教育開発センター
7. その他 参加費 無料
8. 申込み方法(“下記 URL より申込書をダウンロードしてメールに添付してお送りください。または F A X でお送り下さい。)

http://www.cec.or.jp/monbu/21j_moral.html

財団法人コンピュータ教育開発センター

ネットワーク利用促進部 山中、赤松

〒108-0072 東京都港区白金 1-27-6 白金高輪ステーションビル 3階

TEL 03-5423-5911

FAX 03-5423-5916

E-mail cec-mo@cec.or.jp

受講申込みは財団法人コンピュータ教育開発センターにお送りいただきますが、受講された方の氏名等は都道府県・政令指定都市教育委員会から希望があった場合には、報告を行いますので、あらかじめご了承ください。

平成 2 1 年度文部科学省委託事業

「学校における情報モラル等教育の推進事業（指導者養成事業）」実施報告書

発行・著作 財団法人コンピュータ教育開発センター
〒108-0072 東京都港区白金 1 丁目 2 7 番 6 号
TEL 03-5423-5911（代表）
FAX 03-5423-5916
<http://www.cec.or.jp/CEC/>

編集協力 日本文教出版株式会社
研修実施協力 NTTコミュニケーションズ株式会社

禁無断転載



Center for Educational Computing